

こぼれ話 28

旭が丘中央公園の誕生

旭が丘中央公園（旭が丘5丁目1の1）は、昭和四十四年三月に開園した多目的公園です。2万6千平方メートルの敷地を持ち、グラウンドやテニスコート、ランニングコースなどもあり、春は桜のお花見が人気です。

公園のある日野台地一帯は、江戸時代には周辺の村々の共有地として雑木林や畑が点在し、人家はほとんどありませんでした。その後も、昭和九年に八王子競馬場が建設されるまで、本格的な開発は見られませんでした。

多摩平回地が建設された昭和三十年代半ばから、この地域は平山台という名称で区画整理・工場誘致などの開発事業が行われるようになりました。施行面積は128畝で、59畝が工業用地39畝が住宅用地、その他を道路・公園・学校の公共用地とするものでした。開発事業は、昭和四十八年七月十四日に完了し、翌十五日から平山台は「旭が丘」という新地名となりました。

区画整理地域内には、五つの公園ができましたが、中央公園はその「1号公園」として、新住民の人々の交流の場としての役割を果たしてきました。公園内には、区画整理事業の「しゅん功記念碑」や、この地で後半生を過ごした詩人・巽聖歌の「たきび詩碑」などがあり、夏祭りやたきび祭が盛大に開催されています。



▲旭が丘中央公園で行われているたきび祭の様子